

北海道利尻郡東利尻町

埋蔵文化財緊急調査  
報告書

昭和 52 年 2 月

東利尻町教育委員会

## 序

---



東利尻町教育委員会教育長 横内 利喜夫

昭和49年12月、遠く利尻島開拓に汗した先人の遺した偉大なる文化遺産を保護し未来の住むに価値ある町づくりに活用し、以って町民文化の資質の向上を図ることを趣旨とした「東利尻町文化財保護条例」が制定されました。

最北の洋上に浮ぶこの利尻島は、多くの人々の注目を集め、さまざまな文化の洗礼を受けながら今日に至っております。その幾多の文化の歩みを正しく受け継ぎ、未来の東利尻町へのいしづえにするのは、私達の役目であります。

この度、道教委のご助力を得て、東利尻町先史文化に係る埋蔵文化財包含地分布調査を実施いたしました。その結果数多くの遺跡群が確認され、大きな収穫が得られたのであります。

今後、この調査を基にしより具体的な調査を行い、利尻島の文化の推移を解明することに務めたいと思います。

この調査を実施するにあたり、お忙しいなか快よくお引き受け下さった岡田淳子先生とチームの方々、及び地域の関係者の方々に心からお礼を申し上げます。

昭和52年2月

## 調査を担当して——



主任調査員 岡田 淳子

昭和51年8月、利尻島の遺跡分布調査を担当して、まず予想以上の成果が得られたことを喜びたい。利尻島の遺跡に関する調査は、昭和7年名取武光等が行って以来、戦後新聞武彦、早稲田大学考古学研究会、納谷大宝、菅政敏、北大北方文化研究施設、最近では西谷栄治等によって次々に行われ、そのあらましが知られていた。

今回の調査では、これらの知識の上に加えて、町の隅から隅まで綿密な表面採集を行い、新たに数ヶ所の遺跡を加えて、東利尻町内で17ヶ所の遺跡を確認することができた。遺跡の個々については後に述べるが、いくつかの特記すべき事項について、ここに記しておきたい。この調査の成果の一つは、旧石器時代（約13000年前）の遺跡が発見されたことであろう。細石刃と荒屋型彫器を伴うこの種の遺跡は、道北でははじめての知見であり、しかも土器が伴出するかもしれないという可能性さえも示した。

次に縄文中期の円筒土器上層文化（約4000年前）の遺跡を野塚で発見したが、これは道南と直接の文化的つながりを示している。道東北では異質の北筒土器文化が広がっているため、利尻島は、つねに道北の文化圏ではなく、道南の文化圏に入る時期があることになろう。これと同じ現象は縄文時代が終った直後の続縄文文化期にも（約2000年前）見られる。東北地方の影響を受けて道南に広がった恵山系の土器が、大磯や沼浦で発見され、とくに大磯では住居を含むしっかりした遺跡が認められて、道南とのつながりを確認したのであった。

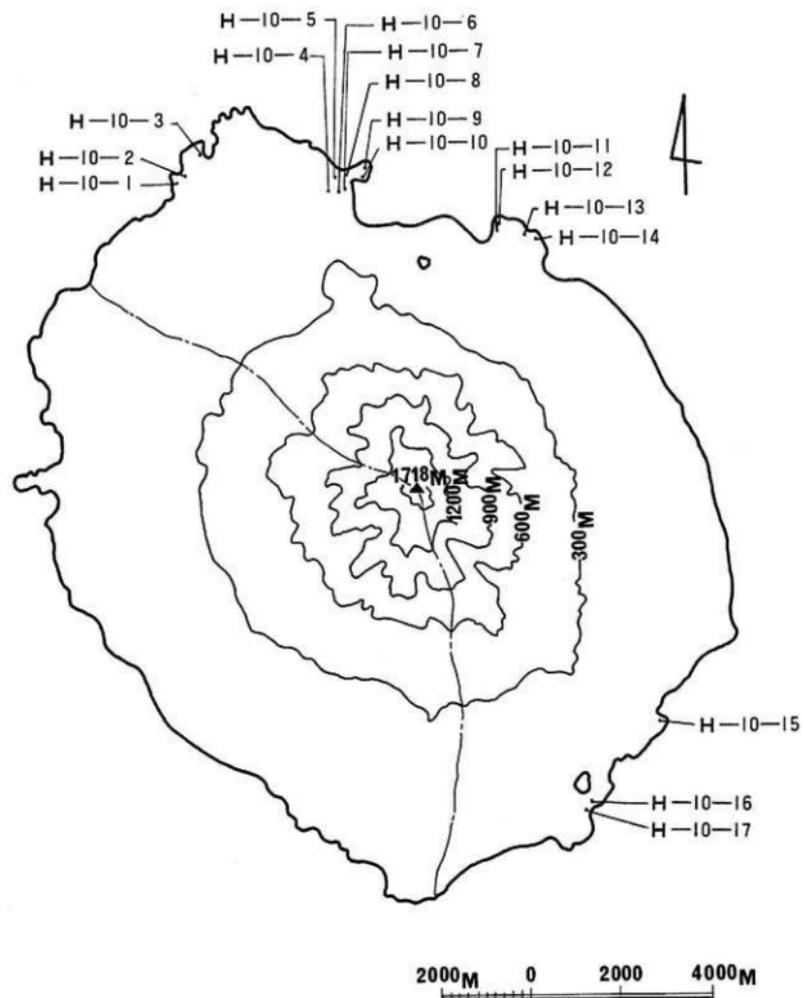
更に西暦五世紀頃（約1500年前）になると、樺太とのつながりのあるスサヤ式土器についてオホーツク式土器をもった人達が、北からやってきたことは宗谷地域と同じであるが、スサヤ式の単純遺跡がベシ岬の上で見出されたことも注目に値する。また、野塚では縄文晩期の遺跡が、沼浦ではオホーツク文化と別系統の擦文式土器が発見され利尻島の先史時代は多彩であったことが明らかにされた。

これらの遺跡はいずれも海に近い砂丘か、火山灰台地上にあり、利尻山が解析され押し流されて堆積した土地には、人は住まなかったらしい。したがって、遺跡は地域ごとにまとまって残される結果になった。また海に依存して暮らしていたことも、この占地から明らかである。水の豊富な湾内の沢や姫沼付近は、水を生活の基本とする人類の住めそうな場所であるにも拘らず、遺跡の発見は皆無であった。

一方、野塚西の切通して偶然発見した遺跡は、地表には遺物の散布がなく、道路工事が行われていなければ、発見されなかったものであろう。私達は可能な限り下をみて歩き続けたが、まだまだ発見されない遺跡があるのは当然であり、その遺跡こそ無痕で残っている数少ないものとみることができる。

最後に調査中お世話になった町教委はじめ、町民の方がたの暖かい心に感謝して、この小文を終りたい。

# 東利尻町埋藏文化財分布図

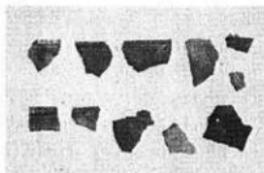


## 大磯地区の遺跡

大磯では二つの遺跡を確認し、それぞれ大磯A、大磯B遺跡と名付けた。  
(H-10-1) (H-10-2)

大磯A遺跡は、海に面した砂丘の崖に土器が多数散布していたもので、今回はじめて発見された遺跡である。時期は統縄文文化に属し、恵山系の単純遺跡と思われる。崖上の草原の窪みに試掘溝を入れたところ、住居の炉らしいものが見出された。

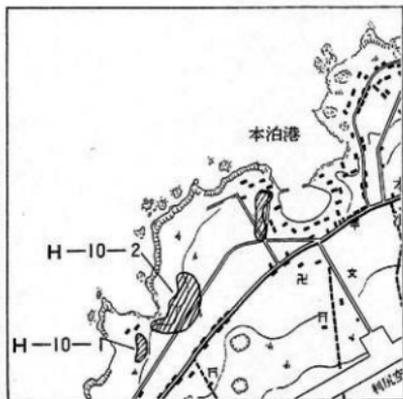
大磯B遺跡は、小さな岬をへだてた東の砂丘上にあり、かつてオントマリ遺跡として報告されたものらしい(名取 1933)。現在は草地となり、小道の縁で多くの遺物が採集できる。遺物包含層は明瞭なものが二層認められ、下層は縄文後期、上層はスサヤ式土器をはじめ前半のオホーツク式土器が主体である。住居址と思われる窪みが散見されるが、その一部は砂取りのために破壊されている。遺物が豊富で200 mを越す大規模遺跡なので、今後破壊のないよう守りたい。



大磯A遺跡の恵山系土器



大磯B遺跡の樺太系土器

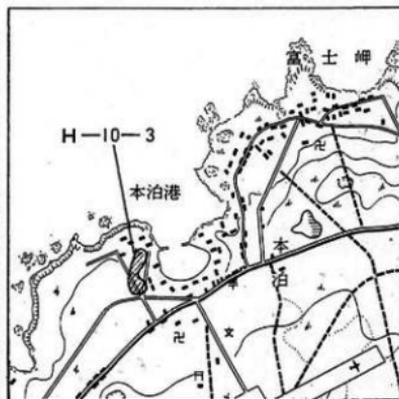


## 本 泊 遺 跡

本泊遺跡は、本泊港の西岸台地上に港を囲むように広がる遺跡で、小道の両側から小型ドリルを含む多数の石器や剥片が採集される。土取り跡の黒土層の断面で、磨消縄文のある縄文後期の土器片を、また畑跡で大きな石囲みの炉らしいものを発見した。人家と草地と畑の入り混った地域であるが、遺跡の保存状態は決して悪くない。縄文時代後期の集落址の可能性は充分あろう。



本泊遺跡の船上層式土器(縄文後期)と石器



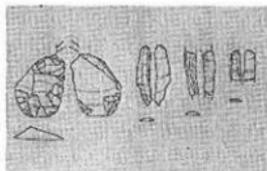
## 鴛泊栄町内の遺跡

鴛泊地区は遺跡の密集地帯で、七ヶ所の遺跡を確認したが、そのうち栄町内には二ヶ所存在し、栄町A遺跡及び栄町B遺跡と呼ぶことにした。

(H-10-4) (H-10-5)

栄町A遺跡は、ノボリオマナイ沢に近い標高40mの緩傾斜地で、現在営林署の苗圃に使われている所である。黒土が雨水で流され、火山灰質の赤土が露呈した部分で、細かい石の剥片を多数採集した。これら剥片のなかには縄文時代及びそれ以後のものとは製作技術の違う、良質な黒耀石製細石刃や頁岩製の荒屋型彫器が含まれている。包含層は確認されていないが、黒色土の残っている部分を掘り、同性質の石器、剥片を2～3得た。利尻島新発見の旧石器時代遺跡として今後、包含層の確認を急ぎたい。

栄町B遺跡は、大法寺裏の少し高まった火山灰台地上にあり、藪のなかに点在する畠と、隣接する中学校教職員住宅の敷地内から遺物が採集された。南側は大きく土取りされ、遺跡の広がりや性質が確認できない状態にあるが、縄文中期及び後期の土器片と石器を確認している。



栄町A遺跡の旧石器



栄町B遺跡の土器(上)と石器(下)



## 鴛泊港町内の遺跡

港町では、鴛泊小学校西側台地上の征清記念碑付近一帯と、これに並ぶ町役場裏の台地上に遺跡が存在する。前者が港町A遺跡、後者が港町B遺跡である。

(H-10-6)

(H-10-7)

港町A遺跡は縄文後期後半の遺物を出し、港町B遺跡では同じく縄文後期と、樺太系の土器を発見している。両遺跡とも標高30m前後の舌状台地上にあり、現在では藪の間に島が点在してそこに縄文後期の遺物を見かけるといふ状況は、可成りよく似たものがある。しかし間に谷があり、その部分では遺物が採集できないので、一応別個の遺跡として考えておきたい。遺跡の性格はよくわからないが、破壊も進んでいないと思われる。



港町A(左)・B(右)遺跡の縄文土器



## ベシ岬の遺跡

ベシ岬の遺跡は三つに区分され、それぞれベシ岬A遺跡、ベシ岬B遺跡、ベシ岬C遺跡と名付けた。  
(H-10-8) (H-10-9) (H-10-10)

ベシ岬A遺跡は、岬のつけ根部分にあり、ベシ岬登口の食堂街から登山道添いに遺物が採集できる。岬のつけ根にトンネルが作られた際、遺物が多量に出たという。また遺跡の範囲と思われる登山道中腹の平坦地には、第二次大戦中監視哨があったとのことでかなり破壊されていると考えられる。時期はオホーツク文化のもので、スサヤ式土器もいくつか採集されている。

ベシ岬B遺跡は、ベシ岬の兩屋下で鵜泊港に面している。かつて渚の部分にはシジミを主とする貝塚があったとのことであるし(名取 1932)、その後、港湾周辺の開発が進むにつれて、オホーツク式土器や人の頭骨の出土も報じられている(新岡 1951、菅 1970)。現在屋下はコンクリートでかためられた部分が多く、遺物の採集はむずかしいが、中腹から裾にかけて階段状に作られた畑では遺物が採集されている。

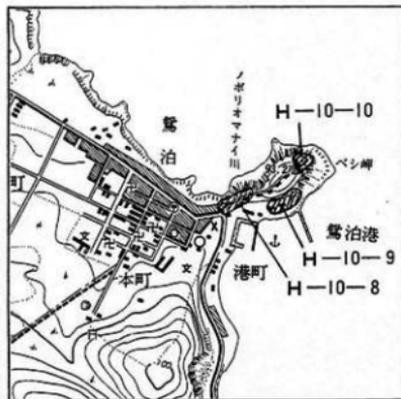
ベシ岬C遺跡は岬上にあり、現在灯台用地として金網で囲ってある平坦部から多くの遺物が採集された。この灯台は昭和49年以來無人となり、住宅等の建物を壊して埋土したというが、今回採集された遺物はその土の中に入っていたものが大部分らしい。埋土は灯台周辺の高まったところから切取ったものと思われる。遺物はスサヤ式土器と、これに伴う石器である。



ベシ岬A(出)・B(下)  
遺跡のオホーツク式土器



ベシ岬C遺跡のスサヤ式土器と石器



## 野塚地区の遺跡

半島状に海にのびた野塚地区では、四ヶ所の遺跡を確認し、それぞれ西より野塚A遺跡(H-10-12)、野塚B遺跡(H-10-13)、野塚C遺跡(H-10-14)と名付けた。

野塚A遺跡は道道利尻島線改修中の掘削りの崖で発見されたものである。包含層が深いためか、地表面では遺物の散布が見られないが、薄い遺物包含層が約100mにわたって確認された。縄文晩期の土器片や黒曜石製の石器が出土している。

野塚B遺跡は現在ほとんどが畠で、多量の剥片と土器片が発見される。耕作者、近江利治氏は、耕作しながら採集した石器及び剥片を沢山保管しておられた。畠の中で灼らしい石組を発見し、付近一帯から土器片や石器を多数採集した。時期は縄文晩期及びそれに続くものと思われる。

野塚C遺跡は野塚の中央部にある規模の大きな遺跡で、畠から縄文晩期の土器片、石器が多数採集される。とくに工藤由太郎氏の平坦な畠では、特徴ある縄文土器片を数多く発見した。この付近は風除けのため畠を掘り窪め、土の壁を作るので、遺跡の破壊が大きいかもしれない。

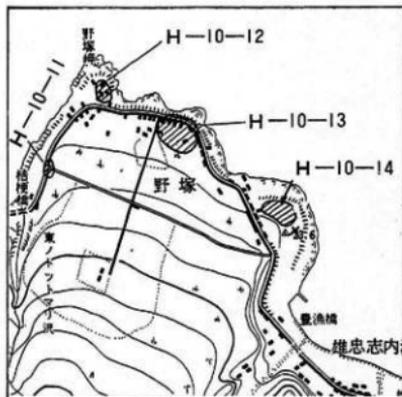
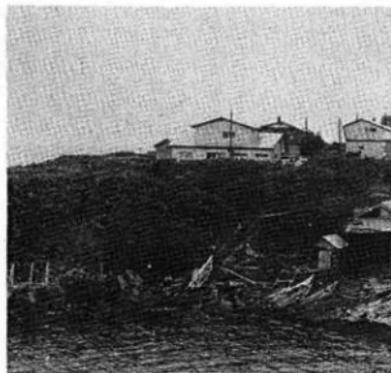
野塚D遺跡は、野塚東端の舌状台地上にあり、現在は畠、昆布の干場、雑草地、人家が入りみだれている。遺物は畠や家のまわりで散見されるが、縄文中期の円筒土器や黒曜石製の石器、石斧等が採集された。



野塚C遺跡の縄文晩期の遺物

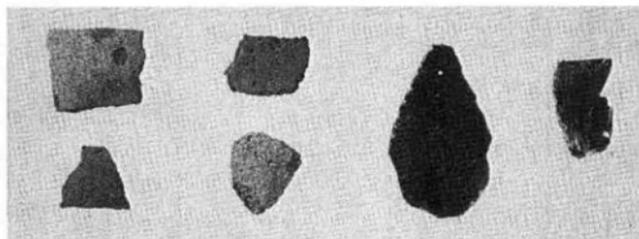


野塚D遺跡の円筒土器と石器

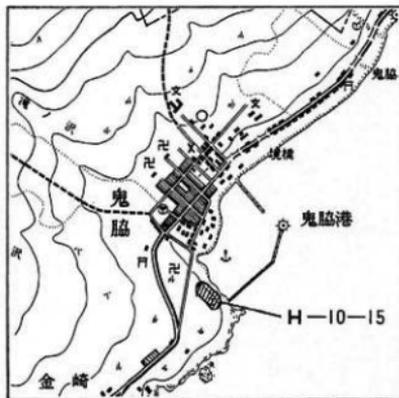
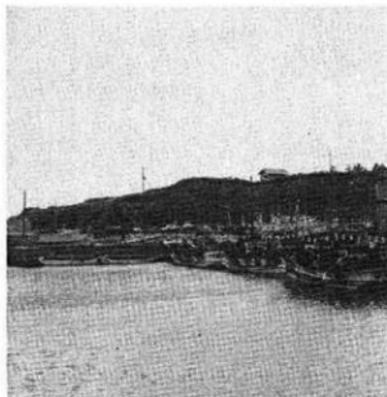


## 鬼脇地区の遺跡

鬼脇地区では以前から、神社付近などで遺跡の可能性が論じられながら、確認されたものはなかった。今回、鬼脇港の南岸台地上で遺跡を確認し、これを鬼脇遺跡(H-10-15)と呼ぶことにした。港整備のため削られた崖と、その上の林や畝で遺物が採集される。範囲はあまり広くないが、港を拓げるために削られてしまったのかもしれない遺物はソーメン文を含むオホーツク式土器とそれに伴う石器である。



鬼脇遺跡のオホーツク式土器と石器

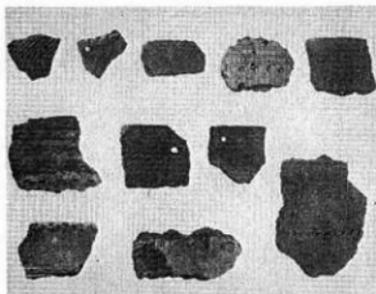


## 沼浦地区の遺跡

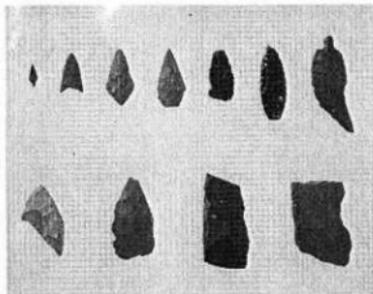
沼浦地区には昭和7年以来、報告され採集されている遺跡があるが（名取1933など）今でもまだ多くの遺物が露出している。利尻島ではめずらしく砂浜の海岸があるが、これに続く低砂丘上に遺跡は存在する。綿密な表面採集の結果、二つの遺跡を認め北より沼浦A遺跡、沼浦B遺跡とした。砂丘の後背地にあたるオタドマリ沼付近や、北側の台地上でも幾つかの遺物が採集されたが、遺跡と確認するには至らなかった。

沼浦A遺跡はオホーツク式土器を主体とし、縄文中期、晩期、恵山系の土器、スサヤ式、擦文土器がある。大形な土器片の発見が多いので、かなり破壊が進んでいるものと思われる。またアワビやイガイを主とする小貝塚もみられた。

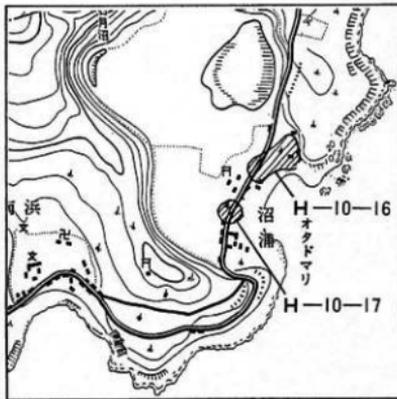
沼浦B遺跡もオホーツク式土器を主体とする遺跡で、縄文晩期の遺物が散見される。現在は島になっているが、規模もさほど大きくなく、破壊の程度も少ないと思われる。



沼浦A遺跡の各種土器



沼浦A遺跡の石器



## 宗谷支庁東利尻町

登録 番号	種 別	名 称	所 在	地 地	土 地 所 有 者	住 所	1: 25,000 地 図	指 定	備 考
1	遺物包含地	大駒A遺跡	大磯 15 ~ 159		片山 静司		1: 25,000		住居跡有
2	遺物包含地	大磯B遺跡	大磯 39 ~ 133		穴沢 辰三郎		"		住居跡有
3	遺物包含地	本泊遺跡	本泊 191 ~ 252		佐藤 俊吉		"		住居跡有
4	遺物包含地	栄町A遺跡	栄町 227		町有地		"		
5	遺物包含地	栄町B遺跡	栄町 224 ~ 227		町有地		"		
6	遺物包含地	港町A遺跡	栄町 91 ~ 148		菊地 駒吉		"		
7	遺物包含地	港町B遺跡	港町 124 ~ 137		須藤 長五郎		"		
8	遺物包含地	ペン岬A遺跡	港町 93 ~ 本町19		菊地 駒吉		"		
9	遺物包含地	ペン岬B遺跡	港町 81 ~ 89		荒田 十二		"		
10	遺物包含地	ペン岬C遺跡	港町 90				"		灯台建物内
11	遺物包含地	野塚A遺跡	野塚 278 ~ 287		工藤 由太郎		"		
12	遺物包含地	野塚B遺跡	野塚 204 ~ 247		内 務 省		"		住居跡有
13	遺物包含地	野塚C遺跡	野塚 75 ~ 151		工藤 由太郎		"		
14	遺物包含地	野塚D遺跡	野塚 11 ~ 35		山田 四一		"		
15	遺物包含地	鬼 島	鬼島 7 ~ 51		東利尻町他		"		
16	貝 塚	沼浦A遺跡	沼浦 113 ~ 138		貝塚 虎吉		"		貝 塚 有
17	貝 塚	沼浦B遺跡	沼浦 89 ~ 203		工藤利三之助		"		